

遺品から抽出炭素で成膜

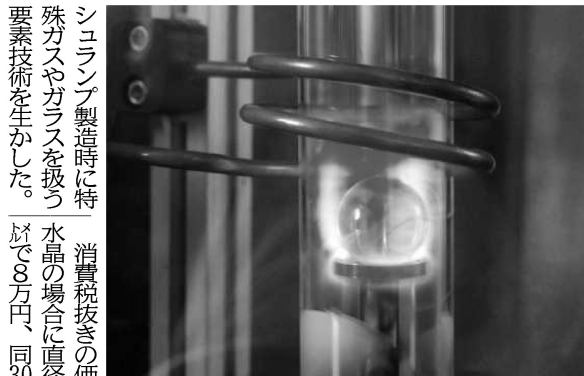
水晶・ダイヤ記念品に

新光 and

新光和（千葉県八街市、石井宏宗社長）は、水晶やダイヤモンドに、毛髪などの遺品から抽出した炭素を用いてダイヤモンドライクカーボン（DLC）を成膜する技術を確立した。「メモリアルダイヤモンド水晶」として生産し、20日に受注を始める。約90〜120日間で納品する。コロナ禍により冠婚葬祭が縮小傾向にある中、手元供養の品や記念品として提案する。

国内生産で短納期

10〜30日の故人の毛髪や衣類、ペットの毛を真空焼成機で真空加熱し、炭素を抽出。この炭素に特殊ガスを加えながら、水晶もしくはメラのキセノンフラッシュ



プラズマ照射で水晶にDLCコーティングを施している

シランやフッ素を製造時に特殊ガスやガラスを扱う要素技術を生かした。

消費税抜きの価格は水晶の場合に直径10ミリで8万円、同30ミリ

で12万円、同40ミリで15万円。ダイヤは0.3ミリで35万円。婚約指輪などにも応用できる。主にホームページで直販し、月100個の販売を目標としている。一般的なメモリアルダイヤに比べ、同社1社。新光和は、電子部品商社のサンシン電気（東京都練馬区、石井宏宗社長）を中核とするサンシングループの

が国内生産するため、短納期かつ低価格で提供できる。